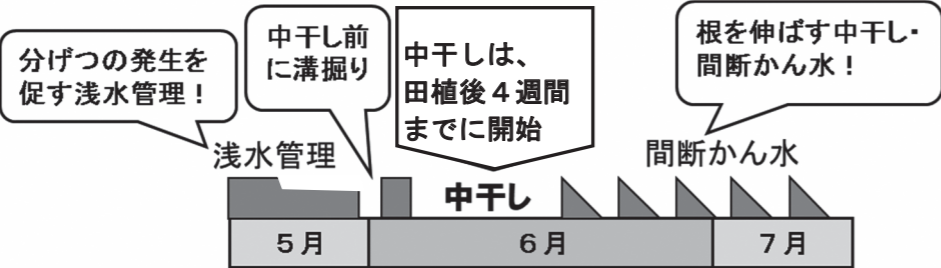


稲作管理特報

収量・品質を安定させる第1歩は、初期生育の確保から！まずは、浅水管理を徹底し、分けつの発生を促しましょう。

次に、田植え後4週間までに中干しを開始し、夏の高温に耐えられるしっかりとした「根づくり」に取組みましょう。

これからの水管理のイメージ



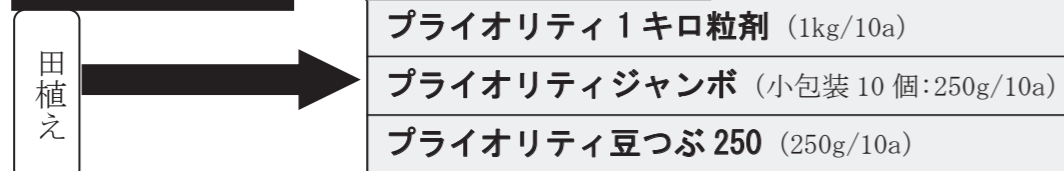
1 浅水管理 ～初期茎数を確保する～

- ・中干しまでは、浅水管理で水温を高め、分けつの発生を促しましょう。
- ・アオ藻が発生している場合や、ガスがわいているほ場、葉色の淡いほ場は、軽い田干しを行い、根の活力を高めましょう。

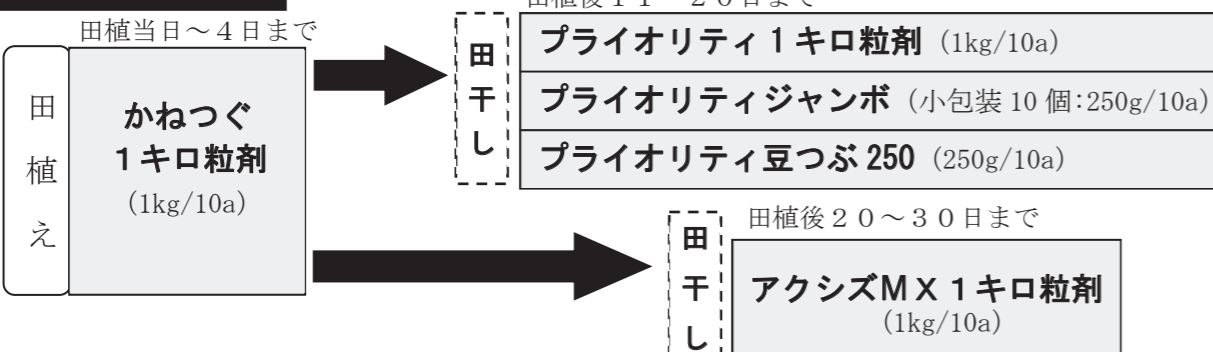
2 除草剤散布～散布後5日間は湛水状態を保つ～

- ・除草剤は、剤ごとの散布目安を参考に、遅れないよう散布しましょう。
- ・散布前にやや深めに入水し、5日間は止め水とし、湛水状態を保ちましょう。チラ干しになる場合は、静かに水を足し、田面の露出を避けてください。散布後7日間は水尻を上げておき、落水しないでください
- ・2回目の除草剤散布前には、1～2日程度の軽い田干しを行い、藻を除去して除草効果を高めるとともに、根を傷めるガスの発生を抑制してください。
- ・藻や表層剥離の多発ほ場では、ジャンボ剤や豆つぶ剤の使用は避けましょう。

一回処理の場合



二回処理の場合



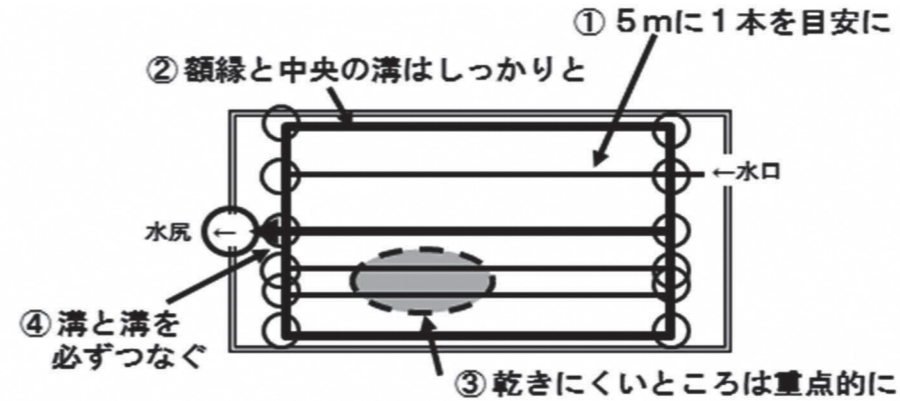
「溝掘り・中干し」は適期を逃さずに行い、しっかりと根を伸ばそう！

3 溝掘り ～中干しの効果を高める～

- ・溝掘りは、中干し前に必ず実施しましょう。

●溝掘りのポイント

- ・軽く田干しを行い、泥を落ち着かせてから溝を掘ってください。
- ・溝は、5mに1本を目安に掘り、ほ場の周囲と中央の1本は、特にしっかりと掘りましょう。
- ・溝は、水尻まで確実に連結してください。



●溝掘りの効果

- ① ほ場のすみずみまで均一に干すことができる。
- ② 間断かん水の際など、水の出し入れがスムーズに行える。

4 中干し ～根の量をしっかりと増やす～

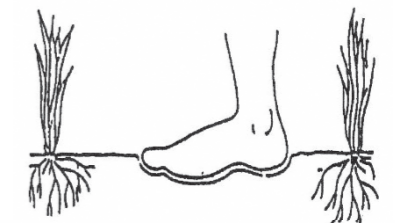
- ・中干しは、田植え後4週間までに開始し、しっかりと干しあげましょう。
- ・中干しが遅れると根張りが悪くなり、青米や乳白粒が発生する原因となります。

●中干しのポイント

- ・田面に小さなひび割れが入り、長靴の跡がつく程度まで干しましょう。
- ・表面に水がなくても足が沈むようでは不十分です。

【中干し開始日の目安】

田植日	中干し開始日
5月10日	6月7日頃
5月15日	6月12日頃
5月20日	6月17日頃



【中干し終了頃のほ場の状態】

※葉色が濃く、過繁茂気味の田や乾きにくい田は、やや強めに干しましょう。

(ただし、落水期間は7日間以内とし、週に1度は溜まらない程度に入水する。)

※茎数が少なめの田や乾きやすい田は、1度に干しあげないようにしましょう。

(中干し後の「間断かん水」(1日湛水、2～3日落水)により、地固めする。)

★JA みな穂営農情報メールを配信しています。

下のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

主な情報
提供内容

- ・ 水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・ 気象情報と災害防止の対策

